

# 人を動かすプレゼン ～ストーリーシートで作ろう～

---

東京外国語大学大学院博士後期課程

大西 秀幸

# Contents.

## 12月4日（講義）

- プレゼンの成功とは？
- プレゼンの構成の練り方
- プレゼンテーションのデモ

## 12月11日（実習）

グループワーク & 発表

プレゼンの成功とは？

---

# 陥りがちな失敗

- 資料を追っていきただけで精一杯、何が大切なのか分からない。
- 盛り上がり欠け、単調で退屈である。
- ギャグがドンスベリ。

## 問題点

- ① 話し手が何を伝えたいのか明確でない。
- ② 聞き手に合わせたプレゼンができない。

# 「プレゼンテーション」は「プレゼント」である

	プレゼント	プレゼンテーション
贈るもの	モノ	情報・思考
贈る人	気持ちを理解し、満足してほしい	内容を理解し、満足して欲しい。
受け取る人	欲しかったものを受け取りたい。	知りたかったことを受け取りたい（役立つこと、知らなかったこと、決定のための手がかりが欲しい）。

⇒ 受け取り手である聞き手が満足しなければ  
プレゼンは失敗である。

# 失敗しないプレゼンに必要な要素

## ■ 問いかけ

聞き手に問いかけるトピック。つまり話し手が言いたい最も大切な部分。

## ■ ストーリー

つまり構成のこと。話の流れがおもしろくなければどんな緻密な分析も、膨大なデータも、驚くべきアイデアも退屈になる。

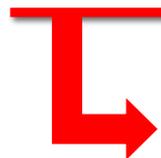
# プレゼン構成の練り方

---

# ストーリーシートづくり

プレゼンを一つのお話と考える。

よく出来た話は頭に入ってきてやすい。

話の構成がしっかりしている。

お話を作る感覚で、ストーリーシート台紙を埋めていこう。

# ブレインストーミング

発表テーマに沿ってアイデアを出す。とにかく思いついたことをどんどん書き出してみる。

- 質より量
- 批判厳禁
- 自由奔放
- 結合発展

アイデアはカードに書き込んでいく。

# グループ化

- ① 「なんとなく近い」「親近感を覚える」というカードを見つけて組み合わせる（直感でよい）。
- ② 組み合わせたカードの共通点をラベルにしていくつかのカードのかたまりをつくる。

# 並び替え

## ① 結論（最も言いたいこと）

問いかけに対する答えの根拠として最もふさわしいと考えられるもの。

## ② 別の観点からの具体例。逆説。疑問点

「しかし一方で、・・・」  
「別の観点から見ると・・・」

## ③ 結論（②への答え）

「考えてみると、・・・」  
「やはり、・・・」

# フレーズ化

- **短いフレーズで直観的理解へ。**

例)

**「インターネット上のコミュニケーションと直接的なそれとが混乱していることが問題である。」**



**問題： 現実／仮想コミュニケーションの混乱**

# フレーズ化のコツ

「インターネット上のコミュニケーションと直接的なそれとが混乱していることが問題である。」



① 重要なキーワードを軸にする。「混乱」、「問題」。

② 体言止めにする。

「インターネット上のコミュニケーションと直接的なそれとが混乱していることが問題。」

③ 助詞を省いていく。

「直接的 / 仮想インターネット上コミュニケーションが混乱していることが問題」

④ 短い表現に置き換える。

「現実 / 仮想コミュニケーションの混乱が問題」

⑤ 語順を変えてみる



問題： 現実 / 仮想コミュニケーションの混乱

# 説明 + 追加情報

- フレーズ化されたタイトルを説明する。  
フレーズを聞き手が納得してくれるような説明を付ける。
- 説得力を高めるために必要な追加情報を書き出す。
  - ✓ 数値化されたデータ
  - ✓ 個々の事例

# 構成の参考に・・・

## ■ Climax order

### ✓ 分析⇒結論（名探偵コナン型）

テーマに対して聞き手の関心・知識が強い

（この前、買い物に行ったんだ。で、・・・、そしたらOOに会ったんだよ。）

## ■ Anti-climax order

### ✓ 結論の予告⇒論証（古畑任三郎型）

テーマに対して聞き手の関心・知識が弱い

（この前OOに会ったよ。というのもね、・・・）

# 実習のお題

---

# 実習のお題

- ① 情報化が与える影響は功か罪か。
- ② 世界共通語を定めるとすれば英語が最適か。
- ③ 現在の若者の職業意識は低いのか。
- ④ 外語祭でおでん屋を出すと（どうすれば）黒字がでるのか。
- ⑤ ワンピースのルフィとドラゴンボールの孫悟空、戦ったらどっちが勝つのか。

発表で気を付けたいこと

---

# 声で伝える

- ボリュームよりも「伸び」  
会場の後ろの壁に届くイメージ
- スピード  
意識して「ゆっくり」
- 下を向いてしゃべらない  
原稿ではなく相手（聞き手）の方に顔を向ける
- メリハリ  
強調すべきポイントで声を大きく  
重要なことを伝えるときにスピードを落とす  
話の切り替えやポイントの前に「間」を置く。

# 言葉づかい

## ■ 過剰な敬語はNG

「それでは、ただ今からプレゼンテーションに移らせていただきます。」

## ■ 無理して難しい用語を使う必要はない。

同音異義語の罠にはまる可能性が。

「こうしんに問題がある」

## ■ 自分の癖に気づく

「あの～」、「え～と」、頭ボリボリ

# 参考文献

- 実教出版編修部編（2011）『30時間でマスタープレゼンテーション+PowerPoint2010：Windows7対応』実教出版。  
※所在：4F@ラボ（ラーニングcommons）  
※請求記号：LC/549/342439
- Jane E. Miller著，長塚隆監訳（2006）『数を表現する技術：伝わるレポート・論文・プレゼンテーション』オーム社。  
※所在：3F閲覧室  
※請求記号：A/407/688901
- 松本茂，河野哲也著（2007）『大学生のための「読む・書く・プレゼン・ディベート」の方法』玉川大学出版部。  
※所在：3F閲覧室  
※請求記号：A/a6/688904